

受 境 管 第 4 4 9 号
平成20年10月16日

国土交通省道路局長 様

境港市長



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付、国道企第37号で依頼のあった標記の件について
別紙のとおり回答します。

建設部 管理課
(担当) 管理係 Tel: 0859-47-1076

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

1. 高速道路網の整備について

高速自動車国道をはじめとした高規格幹線道路網は、最も基本的な社会基盤施設であり、今後とも、国の責任において着実に整備するよう要望する。

2. 道路整備財源の確保、配分について

道路特定財源の一般財源化により、地方に不利にならないよう、真に必要な地方の道路整備を行うための財源を確保するとともに、道路整備が特に遅れている地域への配分を一層高めていただきたい。

3. 無駄な支出を無くし、国民に理解される道路行政を行うこと

②-1 地域の現状と抱える課題

境港市

○現状

境港市は「北東アジアに向けた表玄関」として、中海圏域や山陰地方の将来に向けた経済活動、観光、スポーツ・文化活動等幅広い交流促進を図っている。

境港市の人口は減少傾向にある。人口の「自然減」に加えて、高校卒業後県外に出た後、就職先がないためリターンできないなどの理由から転入者の減少による「社会減」が拡大している。

○課題

山陰地方の高速道路等のネットワーク整備は著しく立ち遅れており、中海圏域の産業活動の骨格となる高速道路網を構築するために、山陰道の全線開通・中国横断自動車道岡山米子線（米子自動車道）の米子北から境港の間・尾道松江線の整備、更には境港出雲道路や江府三次道路など地域高規格道路の早期完成を図る必要がある。

水産業を基盤とする地域経済の低迷や求人問題、高速道路等のインフラ整備の遅れ等、大都市圏との間には依然として大きな地域間格差が生じている。企業誘致を進め、働く場を確保する必要がある。

②-2 地域の目指すべき将来像

境港市の最大の特性は、重要港湾、国際空港、特定第三種漁港を持っていることである。

これらは、「北東アジアに向けた表玄関」への取り組みを進めるとともに、ひとり境港市に限らず中海圏域や山陰地方の将来にとって極めて重要な切り札となり得る大きな社会基盤である。その能力は、広範囲にわたる利活用があってこそはじめて発揮されるものであり、より広範な規模での「連携」の強化が不可欠である。

そこで、これまで以上に広い視点から本市の発展をとらえ、周辺のまちとの連携によって「海と空の港」の活用を強力に進め、共によりよい広域圏を創り上げ、圏域全体の繁栄をめざすために、「連携と共栄」をキーワードに、将来へ夢と希望のもてるまちづくりに邁進する。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	・国道４３１号の渋滞緩和対策 境港市は、貿易拠点基地として西日本各地からの物資が集積する重要港湾と、日本海側屈指の特定第三種漁港を有する水産基地である。その物流の大動脈となっているのが国道４３１号であり、現在でも物流関連交通と生活交通の混在による渋滞が慢性化する路線となっている。 今後、境港と韓国江原道・東海、ロシア・ウラジオストックを結ぶ国際定期貨客船の就航が予定されており、新たな観光・貿易振興が図られることから、全物流量の更なる増加は必至であり、地域活動・地域生活との交通混雑の解消が課題とされる。	・地域活動・生活の交通分散と物流・交流の促進を図る。	
・安心して住みよい基盤	・安心安全な道路整備 通学路や歩道の交通安全施設の整備、市道の維持補修、歩道のバリアフリーなどの市民生活に密着した事業に対する補助事業等の拡充。	・市民の生活環境の向上が図れる。	